

氏名(本籍地)	金子 智 栄 子 (東京都)		
学位の種類	博 士 (学術)		
学位記番号	博乙第 71 号		
学位授与年月日	平成 24 年 3 月 16 日		
学位授与の要件	昭和女子大学学位規則第 5 条第 2 項該当		
論文題目	保育者の力量形成に関する実践的研究 －有効な保育者養成と現職研修のあり方を求めて－		
論文審査委員	(主査)	昭和女子大学教授	藤崎 春代
	(副査)	昭和女子大学教授	三浦 香苗
		昭和女子大学教授	押谷 由夫
		千葉大学教授	中澤 潤

論文審査結果の要旨

申請者は、長年にわたって保育者養成に携わる一方で、現職者研修において地域貢献を行ってきた。本論文は、申請者自身の実習授業実践や地域研修実践を研究の俎上に載せて、有効性を確認しながら実践に改良を加えてきた成果をもとに、養成段階から現職段階までを連続的にとらえた保育力量形成援助モデルを構築することを目的としている。

本論文の独自性は、第一に、保育力量を現代的視点から 6 分類 20 項目に構成した点にある。いまや保育者には、在園児を保育することのみでなく、その保護者への支援、さらには地域の子育て支援にも取り組むことが求められている。しかしながら、こうした保護者支援や地域支援にかかわる専門性については、在園児を保育する際の専門性とは別に論じられることが中心であった。今回提案された 6 分類 20 項目は、保育者の力量を包括的に捉えることを可能にするものであり、今後の研究の枠組みを提供するものとして意義深い。

第二は、養成段階と現職段階とを同時に視野に入れたことである。養成段階においてすべての力量が形成されるわけではないことは、論を待たない。子どもが好きで子どもの成長にかかわりたいと志を持ち、一通りの基礎的力量を身につけたとしても、現場に出たからこそ経験する課題は数多くある。若年保育者の離職率の高さは憂慮すべきレベルにあり、養成校教員が在籍学生のみでなく、現職者の力量形成も視野に入れて検討することは重要である。

第三は、MT および研修のいずれにおいても、その効果を実証的に測定したことである。特に MT については、学生の有効性認識を捉える「幼稚園教員養成用 MT 有効性測定尺度」を作成することに加えて、指導監督者(実習受け入れ先の幼稚園教諭)の協力を得て、「実地指導技術・幼児行動評価リスト」に基づく評価も行い、認識面のみでなく実際の指導面か

らも有効性を捉えたことは高く評価できる。

第四は、養成段階と現職段階を繋ぐものとして、基礎的力量の形成・洗練の重要性を見出した点である。研究開始時点では、養成段階では基礎的力量の形成、現職段階では専門性を発展させる力量の形成がなされると考えていたが、研修の成果について実証的に検討した結果、現職段階でも基礎的力量を発揮することを基礎として専門性を発展させる力量を形成していくことが確認された。この確認を受けて、養成段階から現職段階までにわたり MT を核とした力量形成援助モデルの提案が可能になったといえる。

しかしながら、以下のような問題点もある。

そのひとつは、6 分類 20 項目の力量の中には、申請者の実践において形成できなかった項目があることである。具体的には⑨得意分野の形成、⑭園運営での役割と見通し、⑯今日的な保育の課題への関心、⑰他の学問領域への関心である。これらは、保育者として自らの個性を大事にしたり、保育を保育者の個人的営みとみるのではなく保育者集団で取り組む営みであると理解したり、社会の中での保育の役割に敏感になったり、力量形成のため保育以外の領域の知見を学んだりなど、現代の保育者にとっていずれも重要な力量と思われるが、MT では形成しにくい可能性がある。従来型の MT の大幅な改変、あるいは MT 以外の方法での力量形成の模索も必要であろう。

ふたつめには、提案された力量形成援助モデルには、さらなる検討が必要である。たとえば、現職段階における MT の実施の提案には、具体性に欠ける部分がある。また、行動観察研究や事例検討および公開保育と MT 実施との関連についても十分には論じられていない。今後、申請者が実践を重ねる中で、モデルが精緻化されることを期待したい。

以上、問題点も考慮したうえで、喫緊の課題となっている保育者の力量形成について、その様相および養成校教員の役割について実践的にも理論的にも意義深い知見が得られていることから、審査者一同、博士論文としての価値が十分あるとの判断で一致した。